

私たちは、人間愛と責任感に基づき、患者さまを中心とした

生命を大切にする心
思いやりを大切にする心
学ぶことを大切にする心

をもって地域の安心づくりに努めます。

基本方針

1. 人間愛と責任感に基づく、優しい医療に努めます。
2. 患者さまへの十分な説明と同意、並びに患者さまの選択の意志の尊重に努めます。
3. 患者さまのプライバシーを尊重し、また、個人情報の保護と診療情報の提供に十分な配慮をいたします。
4. 良質な医療サービスを提供して、地域の皆さまの安心づくりに貢献します。
5. 入院・通院から在宅まで「継続的な」医療とリハビリテーションの提供に努めます。
6. 常に患者さまの声に耳を傾けて、暖かみのある療養環境づくりに努めます。
7. 良質な医療の提供のため、たゆまざる努力と研鑽に努めます。

A I Z E N H O S P I T A L

愛全病院では、医療・介護のプロフェッショナルが
皆様のシニア・ライフをサポートいたします。

愛全病院が実践する地域医療連携&介護サービス・ネットワーク



愛全会メディカルネットワーク

《地域に密着した医療の提供を目指しています》

クリニック あい

内科外来：月曜日 午前9：00～午後12：00
訪問診療：月曜日 午後1：00～午後5：00
火～金曜日 午前9：00～午後5：00
休診日：土・日・祝日

TEL (011) 572-3055

愛全病院/その他医療機関



入院・検査
相互連携

クリニック あい



訪問診療
外来受診

ご自宅・グループホーム等



“クリニックあい”は、病気や障害をもっている、家で暮らしたいと願う方が安心して療養生活ができるように、専門的な知識と技術をもって応援させていただきます。電話でのご相談もお受けしておりますので、お気軽にご相談ください。また、訪問診療を行っている患者さまには、24時間体制で病状急変時の電話対応を行うとともに、必要に応じ、グループの中核である愛全病院との密接な連携によって、スムーズなご入院の手配も行ってまいります。

徳々
YU

特集

新たななる挑戦
慢性期人工呼吸管理病床

インタビュー

愛全病院 病院長
川合 榮邦

愛全Topics

Hello リハビリテーション部
第16回「ふれあい祭り」 他



優れた制度の現状

—日本は十分に議論する時間の無いまま高齢社会に突入してしまったせいか制度がコロコロ変わる…(笑)。

川合 諸外国から学んで見習った面もあるこの制度は全国民を網羅する凄く優れたものです。とは言っても人為的に作ったわけだから現場では色々な問題が生じていると思う。これは当然の事で現状は制度的には2年ごと、料金的には3年ごとに検討をしている。医療であれば診療報酬改定しかないが介護の場合は微調整しながらやっているわけですよ。厚生労働省はかなり勉強をしてそれがベースになっている。医療は実験的なものを含めゆるやかに進むが高齢社会は急激に訪れていますから、日本の場合は両極(医療・介護)を取り入れ議論を重ね、先人の積み重ねたものを学び新しいものを展開してゆく事でしょう。

—両極に対する国の要請にも応えるべく努力をなさっていらっしゃると思いますが。

川合 国がある程度筋を示してくれるとそれに添ってその制度を活用してゆくわけですね。愛全会は制度(医療・介護)の違いを持つ二つのものを一緒にやっていますが、2つの接点は何か、と言う事になります。制度設計的に言えば積み上げていった医療と、ある程度人為的に作られた介護制度との間に違和感が全く無いかといったら嘘になりますね。私自身長いこと医療に携わり5年ほど介護施設にも席を置きましたのでそういったことを肌で感じました。

愛
全病院は有能なマンパワーを擁していますから
将来的な展望も充分あります。

インタビュー

愛全病院 病院長
川合 榮邦

医療と介護の一体化の構築

—地域医療が重要視される時代に愛全病院の果たす役割は。

川合 愛全病院は当初から地域に重点を置き長期医療と介護が一緒になった形でスタートしていますので、社会制度と一体となった病院経営がなされてきた。他に類を見ない病院(社会的に欠けている所を補う)に着眼し志した。長期療養という事は現在の介護も当然含まれていた。まさに時代を先取りした先進的な在りかたでした。創業者の先見の明があったわけで、愛全会は社会的に求められている事に応えるという選択肢が良かった。札幌で一番初めに介護老人保健施設(以下、老健)を作ったのを始めとして、ケアハウス、グループホーム(特養は昔からあった)と展開している。また愛全病院は有能なマンパワーを擁していますから将来的な展望も充分にあります。公的な医療機関で実績を積んだドクターもおりますし、より急性期的な意味で目配りをして7~8年かけて受け皿を充実して需要に応えるにはいかなる道があるかを考えてきた。その1つが今回導入した人工呼吸器を活用する道です。愛全病院にはこの機器をこなせる人材が豊富にいるという事です。ドクターも看護師も介護士もレベルは高い、リハビリも高いレベルにありますから、チームを組む事によって新しい場を展開できるパワーを備えている。したがって病院の将来的な展望は開けています。

—ご多忙でしょうが、ご自分の時間はどのように?ご趣味は?

川合 アウトドアが好ですね。かつては草野球もやりましたが、今は山登り、スキー、ゴルフなどですね。ゴルフもスキーも週一で励んでいます。シーズンののはざ間をどう過ごすかが目下最大のテーマですよ(笑)

歯科診療室をリニューアル

愛全歯科はご家族や一般の診療も行っています。時折、「こちらは入院患者専用なのですか?」と質問されるのですが、愛全歯科は普通の歯医者さんと何も変わりはありませんので、皆さん治療を受けることができます。

愛全歯科は訪問歯科診療も行っています。「通院できないから…」と痛みを我慢しないで、当院にご相談ください。

「より良く食べて、より良く生きる」より良く食べるためには、痛くなくても、日頃のメンテナンスが大切です。定期的に検診を行いましょう。



A ロビーを広く確保し、待合時のストレスを軽減すると共に、会計時のプライバシーを確保。
B 移乗が難しい方は車椅子に乗車したまま治療を受けることができます。



歯科医師 小崎 明
歯科直通：(011)572-8068



CT機を更新

CT検査室をリニューアルし、CT機を新機種に更新しました。新機種を導入したことにより、

- 検査時間の短縮
- より良い画像の収集

が可能になり、今までよりも患者様の負担を減らすことができるようになりました。

◀ Asteion™ / PREMIUM 4 EDITION



上)ドクター用ラウンジ。
左)各医師のデスクをブース化。研究や資料調査など、プライベート作業での効率化を図る。

診療部関連環境を整備

昨今、問題視されている医師の就業環境について愛全病院では環境の改善・向上に取り組んでいます。



A 当直室!ビングスペース。待機時間を有効かつ快適に過ごせる様に改装。
B 浴室・台所・トイレなど同室内に完備。

新たな挑戦

Respiration Care Unit

慢性期人工呼吸管理病床

顧問・病院長特別補佐 医師 松原 泉



2階5病棟（一般/障害者等）に新設した人工呼吸管理病床。平成21年10月現在、全8床。



2階5病棟 サービスセンター



左上写真) 人工呼吸器勉強会の様子。勉強会は、延べ16回開催。看護師・介護士・リハビリ部等、病棟担当以外のスタッフも多数が参加。



右上写真) ベッド1対1で設置されているジャクソンリリース回路と痰吸引バキューム。



右下写真) ベッドサイドに常備されている看護・介護用備品。感染予防から、こちらも患者1対1で使用。



上部写真) 各ベッドに新設したアウトレット。



右上写真) 病棟に新設した血液ガス分析装置。



右下写真) サービスセンター用の集中監視モニター。1台で8名まで観察できる。

慢性期医療に求められる役割

愛 全病院では、この10月から、慢性期の人工呼吸管理を必要としている患者様の、受け入れを始めました。

急性期病院での救命医療の進歩は、めざましいものがあります。重篤な患者様が、人工呼吸管理を始めとした、さまざまな臓器サポート医療を受けて、命を取り留めています。しかし、命は取り留めましたが、自分の力では呼吸が維持できない、人工呼吸器から離脱できない患者様も増えてきています。

一方、急性期病院では、医療制度のからみから、在院日数の短縮が迫られています。急性期を脱しても人工呼吸器から離脱出来ない患者様は、当然ながら、長期の入院を余儀なくされます。

このような患者様を受け入れることは、慢性期病院のひとつの役割でもあります。急性期病院と慢性期病院の連携のひとつとして、人工呼吸器装着患者様の受け入

れが慢性期病院の大きな役割となってきているのです。

マンパワーの確保

私 自身は、20年以上救命センターなどで、数千例以上の急性期の人工呼吸管理を経験してきました。その経験の中でも、多くの慢性期、長期の人工呼吸を要する患者様を、連携先の慢性期病院に送り出してきました。救命センターの立場からすると、受け入れてくれる慢性期の病院は非常に心強く感じたものです。

このような慢性期の、長期人工呼吸管理を必要とする患者様を、このたび愛全病院でも受け入れることとしました。

そのために、人工呼吸管理に精通している医師をまず確保しました。急性期、特に、集中治療を経験した医師が当院に在籍しています。また、人工呼吸管理を経験した看護師の確保と、研修をこれまで行ってきました。

安全の確保

また、 緊急事態に対応するべく、安全管理マニュアルを策定しています。人工呼吸器、患者監視モニター、検査器機、医療用ガス、電気関係に至るまでの緊急対策を講じています。

人工呼吸器は、全て信頼性の高い「サーボベンチレーターS」を採用し、患者様個々に患者監視モニターを装着しています。モニターはサービスセンターでも観察できるようにしました。感染予防のために、聴診器や、緊急時に手動で人工呼吸を行えるジャクソンリリース回路はすべて個々の患者様専用としています。その他の対策も、徹底して行っています。

オールスタッフで

慢 性期の人工呼吸管理を要する患者様には、日常的に痰を吸引したり、体位を変えてあげたりしなくてはなりません。また、入浴も必要となってきます。

人工呼吸を維持しながらの看護、介助が求められるのです。これは、病棟のスタッフや全ての病院のスタッフの支えがなくては行えないことです。安全・安心な人工呼吸管理を提供していく固い決意を持って、推し進めて参ります。



写真上部) ベッドサイド用 生体情報モニター
写真下部) サーボベンチレーターS



松原 泉

北海道大学医学部卒、医学博士。
市立札幌病院の救命救急センター立ち上げから20年以上に亘り救命救急医療の最先端で指揮をとり、北海道の救命救急の基盤を構築。
現在、愛全病院 顧問・病院長特別補佐。

愛全病院 リハビリテーション部 *Hello*

訪問リハビリ・チーム

ご自宅でリハビリが受けられます。



私たちがお伺いいたします!

現在スタッフ数は、理学療法士3名、作業療法士4名。南区・豊平区・中央区を日々飛び回ってサービスを提供しています。訪問リハビリテーションは、実際の生活場面である「ご自宅」に訪問し「なぜ大変なのか?」原因を探り出すことから始まります。原因を見つけ、対処方法を提案・指

導し、QOLの向上につなげていきます。ご利用者それぞれ「その人らしさ」を大切に、リハビリを提供しています。

ご利用希望の方は、担当ケアマネージャーまでご相談ください。



呼吸リハビリ・チーム



呼吸リハビリテーション・チームは、今年10月からの人工呼吸器装着患者様受入れスタートに合わせて編成されました。現在のスタッフは、理学療法士3名、作業療法士1名、言語聴覚士1名で構成されています。

私たちは、残された呼吸機能をできるだけ高め、患者様の持っている能力を最大限に発揮してもらい、社会的にも心理的にも充実した生活を送っていただくことを目標としています。

理学療法

呼吸介助、排痰法、胸郭ストレッチなど呼吸機能に対するアプローチに加えて、筋力トレーニング、関節可動域訓練などの全身コンディショニングも合わせて行います。

作業療法

作業療法では、上肢の運動と共に、机上活動や車椅子に乗車し散歩をするなど、QOLの向上を目標に行っています。

言語療法

言語療法では、コミュニケーション手段の検討と嚥下機能の評価を行います。

呼吸リハビリの一例 スクイーミング



呼吸介助法のひとつ。呼吸を楽にする効果と痰を出しやすくする効果がある。

愛全病院 ボランティア活動

夢の会

大正琴の演奏会を月1回ご披露していただいております。

愛全病院では、患者様の療養生活の充実のため多くのボランティアの方々に、ご協力いただいております。

Attention



E v e n t

イベント



愛全病院 第16回「ふれあい祭り」



屋外に屋台コーナーを設置。「焼き鳥」「たこ焼き」「焼きそば」「わたあめ」「おでん」「おやき」「ドリンクコーナー」「フランクフルト」をご提供。



「健康相談コーナー」



患者様の作品を展示



去る9月12日(土)、晴天のなか「愛全ふれあい祭り」を開催いたしました。このお祭りは、「敬老の日」にちなんでご利用者様に喜んでいただけることを目的に開催したのが始まりです。気付けば今年で16回目となりました。



◀ 演芸のゲスト
「ひよっとこ踊り」



川合病院長 & 岡田看護部長



屋内には、緑日コーナーを作りました。「駄菓子」「射的」「パークゴルフ」「紙芝居」「千本引き」で楽しんでいただきました。

S a f e

愛全会・札幌南消防署 合同消防訓練

9月29日(火)、南区・石山にあります愛全会の3施設を対象に、札幌南消防署と合同消防訓練を行いました。今回の消防訓練には、消防航空隊のヘリコプターも出動し、空からの救助活動訓練も行われました。



- 1) 高層階への放水訓練。
- 2) 施設の駐車場にご利用者を避難誘導。
- 3) 施設の居室からはしご車による救助(救助者はローザガーデンの近江職員)
- 4) ヘリコプターによる上空からの救助訓練風景。

C h i l d

もなみ保育園



園長
石川尊子

看護・介護の職員が安心して働けるための法人直営保育園。24時間対応で、生後6ヶ月～未就学児を受入れ。また、幼稚園との二重保育児、学童児の受入れも行っています。



私の息子も
お世話に
なってます

寺本看護科長